

第3号様式

平成23年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A5	取組 名称	地域づくりの拠点としての公民館活動について 与謝野町地区公民館活動推進事業の検証
研究代表者:	公共政策学部 (研究科)		職・氏名: 教授・築山 崇
研究担当者:	外部分担者・協力者 (今井俊郎、青木順一 ほか)		
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名)	京都府与謝野町教育委員会、与謝野町中央公民館、温江地区公民館など		
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>昨年度からの継続研究であるが、本年度は、地域資源を活かした活動の活性化を図る地区公民館でのワークショップの開催(温江地区公民館)と、地区公民館活動に対する住民意識調査(全町を対象に抽出質問紙調査)を中心に行った。</p> <p>ワークショップは、「温江あそび帳づくり～場所めぐりから、時間めぐりへ～」と題して、40,50年前の子どもの遊び場所、あそびの内容を話し合いの中から探り出し、紙芝居風に発表する形で行った。作業では、社会教育ゼミの学生がファシリテーターとなって、地区内の各種団体・グループの活動に関わっている住民が 15 人ぐらいが熱心に参加した。意識調査は、大学側からの素案について、公民館長・主事の集まりでの検討を経て、質問内容を確定し、教育委員会の協力で、全町各地区に均等になるよう約 2,000 配布し、郵送による回収とし、約 50%の回答(地区ごとの偏りは少なく、ほぼ人口比に応じた回収となった)を得ることができた。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>ワークショップの成果は、現在の祖父母世代が子どものころに、自然の素材(山や川、植物など)を活かしたもの、お手玉など手作りの道具によるものなど、多様で子どもらしい工夫のある遊びが存在していたことがあらためて明らかになり、今後の地区のイベント(PTA行事など)で、あそび紹介のブースを設けて、現代の子どもたちに伝える企画というアイデアが生まれた。</p> <p>また、昨年度の地域の魅力発信のワークショップの成果は、本年度に入って「ホテル飛びかう清流と緑豊かな与謝野の里」と題した散策マップの作成と案内看板の設置につながった。</p> <p>アンケート調査からは、地区公民館の存在は広く知られており、行事への参加者から高い評価が寄せられるとともに、約 4 割ほどの住民は公民館活動とほとんど接点がない状況もわかり、活動を広く知らせる必要性があらためて明らかになった。住民の関心・悩みでは、仕事・収入と健康・医療が大きなウエイトを占めると同時に、自分自身学習や防災など今日的な意識の変化、社会情勢を反映した結果も見られた。公民館行事と地区の行事との関係については、参加者の層や関心の重なりがあることがひとまずみられるが、今後さらに相関の分析などを進めることが課題となっている。</p> <p>ごく一部ではあるが、自由記述欄に、「今まで公民館や地区の活動に参加していなかったが、機会があれば今後は参加してみたい」という若い世代の声も寄せられており、活動の広がりへの展望がうかがえた。また、約 50%という回収率はこの種のアンケートとしては高く、住民のニーズ・関心の高さの現れであり、この点でも、公民館活動を今後のまちづくりに活かしていくことの可能性が示されていると言えよう。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<p>平成 24 年 7 月 7 日、京都府教育委員会主催の教育支援研修会で、前年度の活動内容、本年度の活動を紹介した。詳細な報告書は、アンケートの調査時期が年度末になったことと予算不足のため、24 年度前半に発行を予定している。</p>			
<b>【お問い合わせ先】</b> 公共政策学部 (研究科) 社会教育研究室 (教授)・築山 崇			
Tel: 075-703-5325		E-mail: t_tsuki@ym.kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

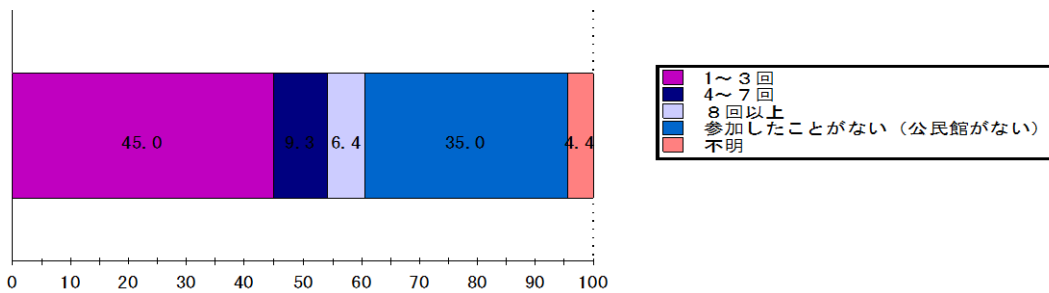
\* 温江地区住民ワークショップの様子



\* 与謝野町公民館活動実態調査 アンケート結果から

□ 地区公民館行事への参加

15 地区公民館行事参加回数 n = 1021



□ 22 度活動の成果 (温江地区散策マップ)

